

第3回御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 視察研修

- 1 日 時 平成25年10月31日(木)
- 2 視 察 先 東京都大田区、久が原ふれあいサロン虹の部屋
- 3 視察内容 ○区民協働推進について(助成金制度中心)
○協働現場見学(高齢者支援関係)
- 4 日 程

10月31日(木)	出 発	東名高速	視 察	昼 食
	御殿場市役所玄関前 8:00	----- 途中海老名 SA 休憩	蒲田駅前図書館 10:30-12:00	-- 自由行動 12:00-13:30
	(集合後移動)13:30-14:00	協働現場視察 14:00-15:00	東 名 海老名休憩	到 着 御殿場市役所 17:00

5 参加者

氏名	所属
渡邊 恵子	市民協働型まちづくり推進協議会
飯田 章	
小宮山 洋子	
滝口 美乃理	
湯山 有朋	
渡邊 茂夫	御殿場市民活動支援センター
勝亦 恵美子	事務局
梶 敏一	
鈴木 峻介	

(合計 9 名)

10月31日大田区視察

視察前所感（参加した理由、聞きたいポイント、得たいもの etc.を事前に発表）

【委員 A】地元でも補助金の申請を行っているが、申請には区長が大変であるという問題があったり、あるいは民間の高額な補助があったりする中、大田区の補助にはどのような申請分類があるのか勉強したい。

【委員 B】初めて協働に携わるので、勉強したい。興味がある。大田区には助成額が大きかったり、制度の種類が多いという特徴があり、「申請に対する相談に応じる」という部分も進んでいるように感じる。御殿場市の団体が補助制度をもっと知ってくればより充実すると思う。

【委員 C】初めてなので、大田区の制度がどのような内容なのか、それが今後どのように活かされるか勉強したい。今年の御殿場市の補助団体は今後につながっていくのかという意味では疑問があった。大田区は観光都市であるなど、御殿場市と通ずる部分もあるので、参考にしたい。

【委員 D】大田区は制度がしっかり確立しているように見える。前年度申請で4月から事業を開始できる体制がうらやましい。予算措置に関してなど興味深い。御殿場市も今年はあるだけのプレゼンができ、たくさんの事業が生まれ、内容も市の方針に近づいている事業が多いように感じた。

【委員 E】今年の御殿場市の助成団体は、「市でできないことを補う」という意味で、それが本当に助成対象なのかピンとこない団体もあった。大田区でこんな団体や事業に助成しているというのを勉強したい。

【支援センター】中間支援の立場から、相談を受ける際の参考にしたい。わくわくフェスタは天気にも恵まれ大勢の人が来場し、いいイベントになった。

【委員 F】(全員の話を受け)団体の可能性を広げ、発展性を視野に入れて大らかな目で審査を行っていくことが必要。

視察後所感（どうだったか、これからに活かそうなこと etc.を事後発表）

【委員 A】進んでいると感じた。

【委員 B】御殿場市はもっと色々な活動が浸透し、申請があればよいと感じた。現場は想像とは違い、本当に気楽にぶらっと寄れる感じだった。車社会の御殿場では難しいが、参考になった。

【委員 C】御殿場市も申請の段階で見積書を付ける必要があるように感じた。大田区のやり方で、書類審査、プレゼン審査とその時々で委員が変わるのは疑問に感じた。

【委員 D】補助金制度がきちんと確立されているように感じた。予算規模等が全然違うが、参考になった。御殿場市は御殿場市なりに発見していければと思う。

【委員 E】予算が寄付金で成り立っていることが参考になった。御殿場市でも太平洋マスターズにおける寄付金や財産区からの助成金が得られれば予算のあり方としてベターだと思う。大田区の事業はスポーツや体力づくりの分野があった。健康寿命を延ばすことが今後重要だと思うので、御殿場市でも健康づくり等に関する提案があればと思う。

【支援センター】支援センターを運営していく参考となった。

【委員 F】(全員の話を受け)事務局と支援センターの連絡を密にし、事前相談の充実を図り来年に向けて準備したい。大田区は「ジャンプアップ助成」が行政提案で、最高2年までだが、今日の現場視察先を見ると2年で終わるのは無責任に感じた。

午前の質疑応答

【委員】審査項目に「④連携協働力」があるが、具体的な想定例は。

【大田区】例えば「虹の部屋」は、町内会の商店街と連携をし、協働している。また、区の福祉分野との連携も想定しており、モデル的事業となっている。

【委員】事業終了後の報告は、書類を出すのみか。

【大田区】現在は書類提出のみ。以前は「NPO・区民活動フォーラム」内で報告会をやっていた。

【委員】団体内部への人件費も助成対象となるということで参考になった。

【委員】2年で委員は全員変わるのか。

【大田区】2年任期で全員変わる。引き継ぎが課題。

【委員】助成制度が終わったあとのフォロー体制は。

【大田区】金を出していないので口も出せないのが現状。区の内部でも議論となっている。ただ、2年間でコーディネーターとの絆ができれば、3年目以降も親密にできる。そういう意味でコーディネーター養成講座の充実を図りたい。

【委員】スタートアップ助成を受けた団体はその後2年間支援が受けられないが、支援が終わった団体で、その2年間が頑張れず消滅した団体はあるか。

【大田区】ないとは言えない。「オーちゃんネット」でも様子が見えてくる。

【委員】助成金の原資が寄付金とのことだが、寄付金集めはどのように行っているか。

【大田区】区の広報誌で募集している。事業者は、毎年慣例的に持ってきてくれる所もある。一人で1千万を寄付してくださった方もいた。震災以降は減った。

【委員】①活動を始めたばかりの団体を助成するスタートアップ助成で、審査で落選した団体はあるか。②団体によって交付額に差があるが、金額の審査は審査会で行うのか。③審査会のイニシアティブは行政か推進会議か。

【大田区】①ははっきりとはわからないが2から3団体だと思う。落ちた団体が表に出ないように配慮している。全体的に申請が少しずつ減っているのが掘り起こしが必要だと思う。②金額は団体の申請に基づくので差がある。事務局内で事前審査をするが、審査会で減らされることもある。③推進会議主体。

【委員】前の質問の回答で「掘り起こしが必要」との回答だったが、具体的な工夫はあるか。

【大田区】「NPO・区民活動フォーラム」に顔を出す、「mics」の講座で交流タイムを設ける等があるが、特効薬はない。

【委員】「こらぼ大森」という支援センターがあるが、市や団体とどのような関わり方をしているか。

【大田区】長く勤務している人がいなく、まだ発展段階。